

お休みは終わり。歩きましょうか。



# 歩

A Y U M E

黒沢あすか

石澤美和 川添野愛 橋津宏次郎 もりゆうり ジャガモンド斉藤  
詩歩 木村保 清水守蔵 保田ヒロシ 安保匠 三土幸敏

監督・脚本・編集 梅沢壮一

撮影:清水チカシ|照明:小舟純久|スタイリスト:池田友紀|ヘアメイク:高橋雅子|美術・特殊造型:ソイチウム|VFX:岡野正広、水谷しゅん  
助監督:田中峰弥|制作:長島紗知|配給:ソイチウム|宣伝・配給協力:平井万里子|宣伝美術:鈴木規子  
2024/日本/カラー/5.1ch/シネマスコープ/84分 ©「歩女」ソイチウム

# 女



記憶を失った女性が、不思議な靴に導かれ見る走馬灯とは――

主演  
黒沢あすか

監督  
梅沢壮

失われた記憶をたどり、  
さまよい歩く女……  
旅の案内人は不思議な“靴”だった——

特殊メイクアーティストとして、『ゴールド・ボーイ』、Netflix映画『ゾン100 ～ゾンビになるまでにしたい100のこと』、「岸辺露伴」シリーズなど数々の映画やTVに参加する梅沢壮一監督。彼が、前作『積むさおり』に続き、妻の黒沢あすか（『沈黙～サイレンス』『楽園』『658km、陽子の旅』『法廷遊戯』ほか）を再び主演に迎えた『歩女（あゆめ）』。交通事故で記憶の一部を失った主人公の女性性が、生きもののような不思議な“靴”に導かれ、自身の過去にまつわるおそろしい真実を知る新感覚サスペンスだ。ホラー、ミステリー、バイオレンスとさまざまなジャンルを横断する作風、まるで生きもののような異形の“靴”の造形を誇る梅沢監督の真骨頂とも言える。そして、前半の地味な印象から一転、黒沢が後半で見せる切れ味鋭いアクションなど、演技の振れ幅にも注目だ。

### STORY

交通事故で記憶の一部がおぼろげになったユリは、不動産屋で働きながら慎ましく暮らしていた。そんなある日、宮内という男が部屋探しにやって来る。その日以来、“靴”に対してなぜか異様な感覚を持ち始めるユリ。そしてついに“それ”は現れた。何かをユリに訴えかけるように不気味に響く“靴の生きもの”——。その靴に足を通した瞬間、謎の残像や何者かの声が次々にユリの脳裏に浮かび始める。やがてユリはその靴の生きものに導かれるように、自身の過去にまつわるひとつの真実にたどり着く。



2024 **8.3** SAT.

より新宿K's cinema  
にて劇場公開  
8/3～8/9 19:30  
8/10～8/16 20:20  
8/17以降はお問い合わせください

梅沢監督×黒沢あすか傑作短編  
『積むさおり』  
8月3日より1週間限定で上映決定！  
8/3-8/9『積むさおり』時間は劇場まで

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿にモーションシアターを  
新宿 K's cinema  
03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com  
各回入替・全席指定席

